



仙台の切欠き魚道と 小さな自然再生活動

NPO法人水・環境ネット東北 2025.11.27

背景1

「多自然川づくり」の定義

多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことです。（国土交通省HPより）

→「多自然川づくり」はすべての川づくりの基本（1992年～）

小さな自然再生（collaborative nature restoration）

- ・小規模で速やかにかつ低コストで行うもの。手づくり型の自然再生。
- ・日曜大工感覚で仲間と共に手軽に取り組める。

→北海道～九州まで、全国で様々な取り組みが行われている。

- ・仮設魚道の設置、手づくり魚道、バーブ工（水制工）の設置、ビオトープづくり など

竜ノ口渓谷（広瀬川合流部）と梅田川の切欠き魚道

- 仙台市（河川課）と国立研究開発法人土木研究所で、魚道を含めた多自然川づくりに関する研究の覚書が結ばれた。
- 2019年 竜ノ口渓谷（広瀬川の支流）に全国初の切欠き魚道が設置された。



竜の口渓谷の切欠き魚道（林田寿史氏 | 土木研究所 自然共生研究センター 資料より）

竜ノ口渓谷（広瀬川合流部）と梅田川の切欠き魚道

- ・2022年 仙台市内の小河川、梅田川に2例目の切欠き魚道が設置された。



2016.8 梅田川 荒巻三番堰



2022.10.29 梅田川の切欠き魚道

目的

- ・梅田川は仙台市内を流れる小河川で、身近な川。
- ・梅田川には魚や水生昆虫などが多く生息している。（アブラハヤ、オイカワ、ギンブナ、タモロコ、モツゴ、ドジョウ、ギバチ、オオヨシノボリ など）
- ・2022年、荒巻本沢にある堰に切欠き魚道が設置され、魚類の上下流の往来が可能になった。
- ・「魚道は作ったら終わりではなく、様々な自然条件に合わせてメンテナンスを繰り返し、良い魚道を作っていく必要がある。」
林田寿文さん（土木研究所 自然共生研究センター）
- ・仙台における市民参加による小さな自然再生活動のきっかけとしたい。
（2023～）

実施状況

2024年 仙台の切欠き魚道と小さな自然再生活動

- 6/30 竜の口の魚道補修作業
- 9/7 梅田川の魚道補修作業 (1)
- 10/6 「梅田川生きもの調べ隊」
- 11/24 梅田川の魚道補修作業 (2)
- 2/7 「竜の口・梅田川
2024川づくり活動報告会」



竜の口の魚道補修作業

- ・日時：2024年6月30日(日)10:00～
- ・集合：仙臺綠彩館
- ・参加：約25名（うち大学生11名）



- ・切欠き魚道の紹介と作業内容の説明
- ・現地補修作業...段差解消のためのプールづくり

梅田川の魚道補修作業 (1)

- ・日時：2024年9月7日(土)12:00～15:00
- ・集合：切欠き魚道
- ・参加：12～13名（見学、取材の人もあり）



- ・現地補修作業...段差解消のためのプールづくり

梅田川 生きもの調べ隊

- ・日時：2024年10月6日(日)10:00～12:00
- ・集合：切欠き魚道そば
- ・一般参加：16組35名
- ・スタッフ・講師：6名



- ・内容：切欠き魚道の紹介、BODパックテスト、魚獲り、観察と解説
- ・確認魚類6種：アブラハヤ、ドジョウ、モツゴ、オイカワ、ウグイ、フクドジョウ

梅田川の魚道補修作業 (2)

- ・日時：2024年11月24日(日)13:00～16:00
- ・集合：切欠き魚道
- ・参加：7名



- ・現地作業...魚道横の穴埋め作業

活動報告会

日時：2025年2月7日（金）18:00～20:30

会場：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5



プログラム

- ①2024年度活動報告：伊藤嶮さん（宮城教育大学棟方研究室）
 - ②ケーススタディ：星泰誠さん（宮城教育大学棟方研究室）
 - ③話題提供：林田寿文さん（土木研究所 自然共生研究センター）
 - ④ディスカッション（意見交換会）
- 提案・コーディネーター：棟方有宗先生（宮城教育大学）

2025年度

- ・テスラバルブを用いた簡易魚道の設置
検証（梅田川）
- ・「梅田川 生きもの調べ隊」
(自然体験活動)
- ・竜の口渓谷、梅田川の魚道のモニタリ
ング、メンテナンスの継続

